

# 2022.8.4 小松市を襲った豪雨

8月4日、石川県は加賀地方を中心に記録的な大雨となった。1時間降水量は白山河内で108.0ミリ、白山白峰で91.0ミリと観測史上最大に達し、小松市では梯川が氾濫した。朝から降り続く雨に、市民は不安を感じていたところ、午前中のうちに、小松市と白山市に警戒レベルが最も高い「緊急安全確保」が県内で初めて発令された。また、両市に記録的短時間大雨情報、金沢、小松、加賀、白山、能美、七尾の6市に土砂災害警戒情報が出された。最大で約39万人に避難が指示され、各地で床上、床下浸水や道路の冠水が相次いだ。

梯川が氾濫するのは1968（昭和43）年以來で、1971年に1級河川に指定されて以降では初めてであった。県内の河川が氾濫するのは2018年8月の米町川（志賀町）、日川（七尾市）以来となった。手取川も一時、氾濫危険水位に達した。鍋谷川（小松、能美市）は決壊し、県の管轄する6河川から水があふれ出た。小松市を含め7市町に災害救助法が適用された。小松市内では集落が孤立したため、市からの申し出を受けて県が自衛隊に災害派遣を要請した。8月4日は、小松市で少なくとも40件以上が確認され、56カ所の避難所に最大1926人が避難した。午後6時時点で、白山河内、白山白峰、小松では3、6、12、24時間の各降水量が観測史上最大を記録。白山河内は48、72時間降水量も歴代最大を更新した。小松は6時間で最大180・0ミリ、白山河内は12時間で最大373・5ミリの雨が降り、それぞれ8月の1カ月分の平年値を上回った。

## 本校教員による 豪雨災害の記録の紹介

## 災害ボランティアへの参加

部活動単位でボランティア活動に参加しました。

1学期に校内で倉庫の掃除をした経験を生かして、自分たちに何ができるか考え、ボランティアに参加することが地域貢献につながると思いました。運動部の生徒たちは、体力などの必要な部分だけでなく、私たちの持ち味であるスポーツマンシップにより地域のみなさんに感謝されました。



本校の非常勤講師 松登繁隆先生は、小松市中海町在住です。運よく被災しなかったものの、浸水まであと数センチだったということでした。このような災害を記録し、後世に伝えていかなければならないと考え、写真と動画で記録を残していました。今回、文化祭では記録を公開し、生徒・保護者に見てもらおうことにしました。



津上川氾濫



## 親子で考える『災害時』の食

### 「災害食」体験

お湯160mlを注ぎ、15分待つて5人ぐらいで分けて食べてみましょう。

コロナ対策として、取り分ける人は代表者とします。

食べるときは、黙食を徹底する。食べた後は、各自でゴミ箱に入れてください。



12月22日の文化祭で、PTAと協力し『災害食』を食べてみる体験活動を企画しています。小松商業高校は、梯川の近くに立地しており、今回の豪雨により被災した生徒もいました。これを一つのきっかけとし、災害時の行動や、避難所での生活、災害に備えることを意識させようとPTAが企画しました。



ローリングストック

### 「非常食」と「災害食」の違い、ご存じですか？

東日本大震災のとき、「水がなくて乾パンは飲み込めなかった。高齢者や子供は、乾パンは堅すぎて食べられなかった」という実態があったそうです。真冬の寒い避難所で、暖かくておいしい汁物は、まさに命をつなぐ食べ物でした。普段使わないで倉庫に入れておくもの、だから値段が安く消費期限が長い軽いものの方がいい…味や食べやすさはこの次ぎ、これが**非常食**。これに対して、災害時にライフラインが途絶え、物資が入ってこなくても用意することができる普段に近い、栄養も考えた食事、これが**災害食**です。これらを家庭でも備蓄し、時々使い、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法を**ローリングストック**といい、ポイントは**日常生活で消費しながら備蓄**する、です。食料等を一定量に保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることができるはずですよ。